

No 36
31 Oct. 2012

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 発行日 平成24年10月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内 TEL03-5604-8611 FAX03-5604-8613

私とパプアニューギニア (独立記念パーティーに参加して)

廣瀬 俊也 (当協会会員)



今年も例年のように、パプアニューギニアの独立記念パーティーのお誘いがきました。早いもので、パプアニューギニアは今年で独立37周年になります。

私とパプアニューギニアのかかわりは、1980年までさかのぼります。まだ20代だった当時、私は、川崎重工に勤務していて、GusapにあるRamu Sugarの建設に携わっており、1980年から約2年間、Siteに駐在していました。

その時はまだ独立してから5年しか経っていませんでした。早いものであれから、32年経ったことになります。

縁があって日本・パプアニューギニア協会の個人会員になってからは、独立記念パーティーのお誘いが来るようになり、毎年恒例のように参加させていただいています。

今年は、参加者も400人近くになり、年々盛大になっていくのを見るのが私の楽しみにもなっています。

恒例のパプアニューギニアの近海で捕れたマグロの解体ショーに加え、今年もパプアニューギニアから、立派なブラックタイガーの料理が出て、その味と大きさにびっくりさせられました。

振り返りますと、このパーティーで、過去にいろいろな方と出会いました。

何年前かに、パーティーで、エンガ州にあるKumul Lodgeのオーナーの方にお会いしました。機会があれば、一度Kumul Lodgeに行きますと、話をしたのですが、それがき

っかけで、Wifeとのハネムーンをパプアニューギニアに行くことにして、Kumul Lodgeを予約し、実際にKumul Lodgeでオーナーと再会できたのは、本当にうれしかったです。また、私は、以前、当時日本に住んでいるパプアニューギニアの方の日本の身元保証人をさせてもらったのですが、その方が、日本とパプアニューギニアを行き来しているうちに、連絡が取れなくなり、音信不通になってしまったので、そうとう心配したのですが、この独立記念パーティーで再会することができました。

このパーティーは、私にとって、人との出会いの場でもあります。毎年この独立記念パーティーに参加するたびに、どんな方とお会いできるのかと、ワクワクドキドキしながら、9月のお誘いを待っています。



ニューギニア本島での遺骨収集について

堀江 正夫 東部ニューギニア戦友遺族会 会長（当協会 名誉顧問）

1. はじめに

ニューギニア本島北岸地区は、前大戦で、日本本土を目指す米豪連合軍の進撃路であり、迎え撃つわが軍との間に激戦を交わした戦場であり

ます。わが軍は、陸海軍合わせて15万名の兵力で、昭和17年夏から約2年間を、マッカーサーの連合軍を、この地域に釘づけにし、その後は終戦まで、豪軍との激戦を続けました。

ただ、はじめから制海空権を完全に手にした、圧倒的な敵に対し、我が軍は、食なく、弾丸なく、強力な兵器なく、十分な兵力もない、厳しい苦しい長い戦いを強いられ、その上ご承知のあの瘡痍不毛に加えて、厳しい地形での長遠な転進機動の連続により、遂に13万名もの尊い犠牲を出しました。

特に戦死者の6割余りが、マラリヤと栄養失調による餓死であったことは、真に無念の極みであります。

2. 今日までの遺骨収集

敗戦により、僅かに生き残ったわれわれは、戦友のご遺骨をその儘残して、後髪を引かれる思いで帰国しました。



真に断腸の思いでした。

戦後やっと昭和30年から政府の収骨が始まり、戦友や遺族や心ある学生諸君が進んでこれに協力し、断続的には今日まで24回、1万7千余柱を収骨、その他を合わせてもまだ約5万柱であります。

平成18年度から、収骨促進のため、毎年2名1組で5次に亘り、現地事前調査を、ニューギニア政府や地域住民の協力を得て行っていますが、これによる成果も1千余柱にとどまっています。

まだ、約7万柱もの遺骨が、故国に眠る日を待ち焦がれておられるのです。

3. これからの遺骨収集

これまでの施策では、正に百年河清を待つに等しく、国として本当にこんなことで良いのかと考えざるを得ません。

私は特にこの数年前から、政府や政治家にいろいろお願いして来ましたが、微力まだ曙光を見出し得ずにいます。

遺骨を完全に故国にお迎えするのは、何処の国もそうでありますように、政府、政治の重大な責任です。

心ある多くの皆さまの、ご理解ご賛同ご支援を頂き、是非共本格的な解決を図りたいと念願する毎日です。

平成24年度 理事会 総会

平成24年6月27日、学士会館(東京都千代田区)にて、当協会理事会・総会が開催されました。

山下会長をはじめ13名の理事、並びに約30名の会員が出席し、23年度の活動報告、決算報告と承認、24年度の活動計画、予算案審議と承認、理事・監事についての再任及び新任の承認がなされました。

その後、堀江名誉顧問の乾杯のご発声にて、懇親会が開催されました。



平成24年度 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 役員一覧

名誉顧問	大河原 良雄 (財団法人世界平和研究所理事長、元駐米日本国大使)
名誉顧問	マイケル・マウエ (前駐日パプアニューギニア特命全権大使)
名誉顧問	ガブリエル・ドゥサヴァ (駐日パプアニューギニア特命全権大使)
顧問	堀江 正夫 (東部ニューギニア戦友会長、元参議院議員、元日本・パプアニューギニア友好協会会長) 日本・パプアニューギニア友好議員連盟の諸先生 〔代表 村田吉隆 (衆議院議員 日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)〕
会長(理事)	山下 勝男 (元駐パプアニューギニア日本国大使)
副会長(理事)	唐沢 敬 (立命館大学名誉教授)
副会長(理事)	鈴木 紀久代 (新潟パプアニューギニア協会 事務局長)
副会長(理事)	高松 裕満 (協和海運株式会社 代表取締役社長)
名誉顧問(理事)	谷口 誠 (桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問、前日本・パプアニューギニア協会会長、元駐パプアニューギニア日本国大使、元日本国連大使)
理事	馬詰 修 (三高物産株式会社 代表取締役)
理事	大沼 京三 (株式会社日本墓苑開発センター 代表取締役)
理事	賀集イレーネ (アルゼンチン共和国弁護士)
理事	川口 正義 (旭化成建材株式会社 海外事業室 室長、日本旅行作家協会会員)
理事	長 宏行 (財団法人オイスカ 国際協力部 部長)
理事	中村 弘 (晃和木材株式会社 前代表取締役社長)
理事	原 晃 (コーエイ総合研究所顧問、元 PNG 政府外国人契約公務員)
理事	福島 正光 (株式会社ビーエムコーポレーション 代表取締役)
理事	古川 雅彰 (晃和木材株式会社 代表取締役社長)
理事	武藤 優 (株式会社パプアニューギニア海産 代表取締役)
理事	村越 裕之 (コスモメディア株式会社 代表取締役)
理事	山邊 登 (有限会社 PNG ジャパン 代表取締役社長)
理事〔新任〕	阿部 英寿 (株式会社 かもめ 代表取締役社長)
事務局長(理事)	島田 謙三 (ニューギニア航空 前日本支社長)
監事	土屋耕太郎 (土屋法律事務所弁護士)
顧問弁護士	中村 哲朗 (小川総合法律事務所 弁護士)

第2回 Kivung Bona Toktok on PNG

植田 早苗 (当協会 会員 ポリトライブ会員)

「8月31日 PNG協会主催の講演会があり出席してまいりました。」

テーマは「サマライ島に住みついた、明治の日本人とその子孫達、～日本ーPNG交流の記録」、会場はPORTA 神楽坂6階の東京理科大同窓会倶楽部でした。

ご講演してくださったのは、日本・PNG協会の原理事、そして講演終了後は参加者での懇親会となりました。講演、懇親会ともドウサバ大使、ベベゴ公使もご参加にられました。

講演の内容は明治時代に多くの若者が南米、アメリカ西海岸、ハワイなど太平洋諸島へ移民し、特にオーストラリア領にある木曜島には一時三千人の日本人がいたということです。原氏がPNG滞在中日本人の子孫と思われる人に出会ったことがきっかけで、いろいろな調査をされたことが主な内容でした。

木曜島は、オーストラリアの北端ヨーク半島のすぐそばの小島で、サマライ島は、その真東にあたり、ニューギニア島の東端の島です。その島で年配のマリーと言う女性に出

会い、彼女は母親が小さい時に亡くなったこと、父が日本人でタナカと言いまりを船に乗せて、貝を採ってその貝でボタンなどを作ることが、大きな収入源になっていたことなどがわかったそうです。

その一人の女性に出会い、系図を調べて行くうちに、いろいろなことが分かり、現在でも明治の日本人の子孫の一人、ミナ・シアグル女史は高等教育省の次官であり、PNGにおける女性の社会進出の話題になると必ず名前が出る一人で、サマライ島に住みついた明治の日本人の子孫の誇りになっているということです。

原氏の講演はこれからも世に知られないまま、世界で活動している人々のことを伝えていくのではと思いました。



総選挙とロイヤルビジット

成田 俊幸 (ポートモレスビー在住 当協会 会員)

2012年PNG最大イベント総選挙が終了してはや2ヶ月。現地ではどんな様子であったか、振り返ってみたいと思います。

* 今回の選挙での主だったハプニングをあげると

* ソマレ元首相が政治家引退声明を翻し直前に立候補を表明。

* ヘラ、ジワカという新しい州が2つ増えて、議員の人数が109名から111名に増員(実質2州の知事枠の2名が追加)

* 111議席に過去最高の3,435名(前回は2759名)が立候補

* 選挙期間の為の国会閉会直後、最高裁判所がオニール政権を違憲、合法的な首相はソマレ氏と発表。この為にオニール氏が急遽来日を中止。翌日臨時国会で内閣不信任案を提出し、ソマレ氏を解任、オニール氏を首相として選出。

* ベルダン・ナマ議員が最高裁裁判官を逮捕。(選挙終了後最初に国会でナマ氏は裁判官に謝罪しています)

* キャンペーン中の選挙違反にはこんなものがありました。

* 自分の選挙区以外から3トトラックの荷台に詰めるだけ人を積んで自分に投票させようとした(ばれて失敗)

* 選挙権のない子供が投票(かなりの数成功)

* 一人で複数回投票(20回投票した人間も)

* 投票所へ運ぶ途中で投票箱が消え、発見された時は記入済み投票用紙で一杯になっていた。

* 日本と関係の深い立候補者についてご紹介します。

* 外務次官、前駐日PNG大使 マイケル・マウエ氏 残念な

から落選

* 秋田大学准教授 ウイリアム・トンガンブ氏 当選、ジワカ州知事 若く、学識の高いトンガンブ知事の誕生を地元は大歓迎。

* 前石川県金沢市 国連大学勤務 アルフォンス・カンブ氏 残念ながら落選

* これで2012年も静かに終わると思っていたら、今は道路工事で大渋滞。

本来は事務所から10分の空港に40分必要。もう一つの大会場11月第1週の英国連邦の将来の元首・チャールズ皇太子ご夫妻のPNG訪問準備で、ポートモレスビー市内は穴だらけの道路の補修、歓迎バナー・看板の設置(皇太子夫妻がお通りになる所だけ)に、建設会社は大わらわ。道は舗装されゴミは掃除され、町が綺麗になります。モレスビーが本来の姿に戻る前に、ロイヤルビジットに合わせて新政権が綺麗に仕上げたモレスビーを是非見に来てください。これを逃すと、あと36年くらい待たないと、綺麗なモレスビーは見られないかも知れませんよ。



日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第29回

「みなさん、こんにちは」

JX日鉱日石開発
株式会社です。

〒100-8163 東京都千代田区
大手町2-6-3 JXビル

今年3月より、
本協会に入会致しました、
JX日鉱日石開発株式会社です。

新日本石油株式会社と新日鉱ホールディングス株式会社は、2010年4月1日、統合持株会社「JXホールディングス」を設立し、両社グループの全事業を統合持株会社(JXホールディングス)の傘下に統合・再編・整理いたしました。

当社は、2010年7月1日より、「JX日鉱日石開発株式会社」としてJX日鉱日石エネルギー株式会社、JX日鉱日石金属株式会社とともに、石油・ガス上流開発部門を担うJXグループ中核事業会社の一つとなりました。

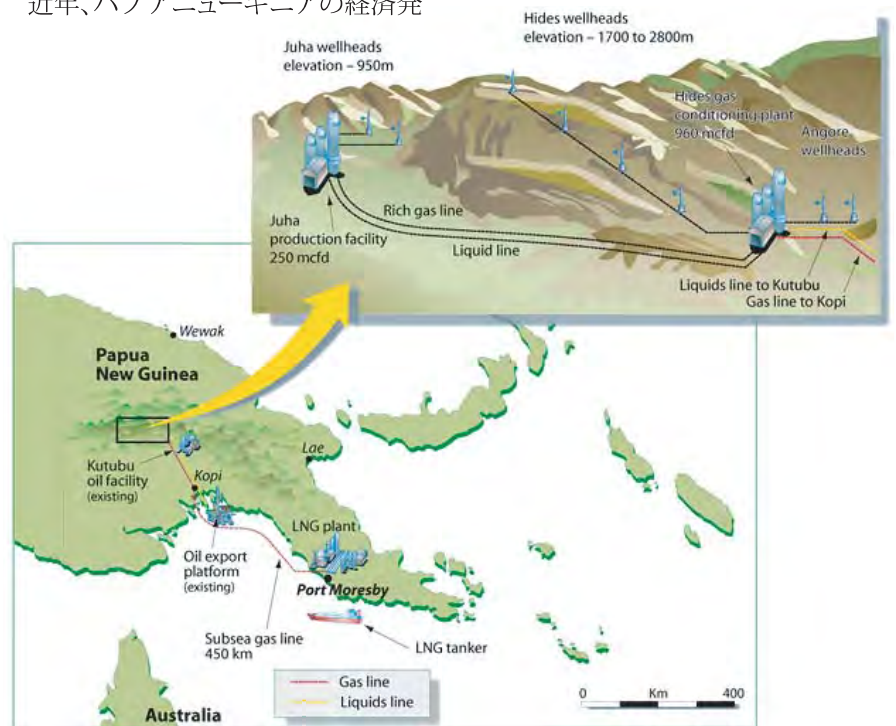
当社は、1990年以降ハイランド地区にあるクツブ、モラン等の各油田にお

いて探鉱段階から原油の生産事業に取り組んでまいりました。また、現在、パプアニューギニア湾の海上鉱区において石油・ガスの探鉱活動を積極的に行っております。ガスの商業化につきましても、PNG LNGプロジェクトの事業化につきその検討段階から参画、2009年12月に最終投資決定(=開発移行)、2014年中の出荷開始を目標に、現在開発作業を実施しております。PNG LNGプロジェクトについてはパプアニューギニア政府からの全面的支援を得て、将来の当社活動に貢献する事業として期待されております。

近年、パプアニューギニアの経済発

展には目を見張るものがあり、国内総生産も順調に増加、その社会も街並みも急速に変わりつつあるのではないかと感じております。協会の皆様も同様な思いをお持ちに違いありません。この変化は、2014年中に予定されているPNG LNGプロジェクトのLNG輸出により、更にしかも急激に加速されると予想しております。

当社は、他のプロジェクト・パートナーとともに、こうした大きなパプアニューギニアの社会変化をも視野に入れながら、LNGプロジェクトの実現に向け活動を行っております。



編集後記

今回も発行が遅れまして、申し訳ございません。今回より「ごらくちょう」は基本的には、E-mailによる配信となりましたが、みなさんきちんとお読みいただいております

でしょうか？ 不具合などありませんでしょうか？ 問題などございましたら、何なりと事務局までご連絡、ご相談いただければと思います。郵送の会員の方で、インターネットを始められた方は、E-mailアドレスのご登録をお願いいたします。「ごらくちょう」のバックナンバーは全て、協会のホームページ

でご覧いただけます。次回の協会主催のイベントは、平成24年度(平成25年3月まで)にご来日予定のピーター・オニール首相の歓迎会となります。日程などが決まりましたら、会員の皆様にはご案内申し上げます。秋も深まってまいりました。年末まで皆さん元気で参りましょう。(KS)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
会員数 2012年9月末 *法人会員/25 *個人会員/124

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

口座記号/番号 00140-2-277582
加入者名/トクヒ) ニホン パプアニューギニアキョウカイ
問い合わせ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内
電話 03-5604-8611 FAX 03-5604-8613 E-mail: info@jpng.or.jp
URL <http://www.jpng.or.jp>